

# 祝関西大学博修士会創立70周年 —次世代への礎—

関西大学校友会 会長 田中 義信



この度は、貴関西大学博修士会が創立70周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。折しも2022年は我が関西大学が大学令に基づく大学（旧制）への昇格から100年という節目にあたる祝賀の年でもあり、まさに二重の慶びであります。

関西大学博修士会は、1952年（昭和27年）の創立来、各界でご活躍される約24,000名の会員がおられる組織で、関西大学校友会の中でも大所帯組織として発展してこられました。関西大学が他大学と比していち早く新制大学に移行後、1950年（昭和25年）に新制大学院が設置され、その栄えある1期生が新修士となられたことで修士会が誕生しました。その後、博士課程修了者が加入することで、名称を「関西大学博修士会」と改称されたことは、多くの皆さまの知るところでございます。爾来70年にわたり脈々と、どの時代においても各界の先達が、過去の経験を礎石としつつも社会の最先端を見据えて尽力され、その成果を常に実社会に還元されてこられました。これは、1922年（大正11年）に山岡順太郎（総理事・第11代学長）が提唱した学是「学の実化」の理念、「大学は教育研究に実社会の知識や経験を取り入れ、社会は大学の学術研究の成果を取り入れることによって、『学理と実際の調和』を求める考え方」をまさに長年具現されてきたと言えるのではないのでしょうか。日々努力を惜まず奮励されてきた皆さまに敬意を表すとともに、心より感謝申し上げます。

関西大学大学院は、近年に至るまで継続して大学院改革を行い、関西、ひいては日本屈指の研究教育機関として発展してまいりました。現在我が国で博士課程を設置する大学院は約460校あり、年間約15,000人が修了します。そんな中、文部科学省が文系・理工系双方の博士人材のキャリアパス開拓の支援策を中央教育審議会での検討を踏まえて展開されています。関西大学におきましても、国立研究開発法人科学技

術振興機構（JST）が推進する「次世代研究者挑戦的研究プログラム」事業に採択され、「関西大学大学院『考動力』人材育成プロジェクト」として、高度な知識・技能を修得しつつある博士課程後期課程学生が、卓越した「考動力」を発揮して様々な社会課題に取り組み、その解決に貢献できる研究者もしくは高度専門職業人として自立して活動することができるよう、経済的支援が強化されています。この事業は、専門領域の研究に専念できるのみならず社会に貢献できる自身の将来像を描ける環境を総合的・包括的に整備することを目的とした取組みであります。関西大学大学院におけるさまざまな教育改革により、近年における世界情勢の混沌並びに未曾有の新型コロナウイルス感染症蔓延等による不透明な時代においても、過去3年間の関西大学大学院入学生総数は前期後期とも増加傾向にあり、自ずと博修士会組織のさらなる発展に繋がっていくことは言うまでもありません。

関西大学校友会は、「会員相互の厚誼を厚くし母校関西大学の隆盛を図ること」を目的として活動しています。この精神は関西大学校友会における確たる理念であり、次世代においても大切に守り続けていくものです。VUCAの時代と言われる昨今、変化が激しく先行き不透明な社会情勢ではありますが、そんな時代であるからこそ各界で邁進されている、貴会員さまをはじめ50万人を超えようとする校友の皆さま方が、母校はもとより我が国、そして全世界の繁栄へと力強く導いて頂きますよう、ご提言並びにお力添えを切にお願い申し上げます。

最後になりましたが、関西大学博修士会のさらなるご発展と、会員の皆さまの益々のご健勝をお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。